

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの自己肯定感を高めて、自分を大切にし、自分のよさを見つけ、頑張り続けられる子どもを育てます。 ○わかる喜び・できる喜びを実感させ、やる気を引き出す授業づくりに努めます。 ○一人ひとりの子の状況を把握し、その子の実態に合った学習をすすめます。 ○人とかかわり方を学び、誰とでも気持ちよく生活できるコミュニケーション力を育てます。 ○学校内にとどまらず、地域の方々・保護者と積極的に関わることで、子どもがまちを愛する心を育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	自ら課題を見つけ、自分の思いや願い、考えをもって解決にあたる児童の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの思いや願いを生かして生活科や総合的な学習の時間の単元・学習構成を工夫する。 ○体験的な活動を充実させ、子どもの意欲や関心を引き出し、価値づけることで、粘り強く問題解決にあたるができるようにする。 ○子ども同士の話し合い活動を多く取り入れ、自分の思いや考えを相手に伝えることができるようにする。
担当	研究指導部	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

本校の学力や生活・学習意識は年々広がりを見せていたが、昨年度は前年度に比べてどの項目も減少しがちな傾向が見られる。また、学力に関しては学年によって差はあるものの、全体的に横浜市の平均を下回っている状態である。

しかし、生活意識において「勉強が好きか」・「ノートをていねいに書いているか」・「自分の考えを発表しているか」という設問では、市の平均を上回る結果が見られた。このことから、学習に前向きに取り組もうとする気持ちをもっている児童が多いことが分かる。さらに、「一生懸命取り組むことがあるか」・「最後までやり遂げて嬉しかったことはあるか」の設問においても、あると答える児童が多く、好きなことに熱中し、達成感を感じながら日々過ごしていることもよく分かる。

だが、「自分にはよいところがあるか」の設問では、自信の無さがうかがえる結果が見られた。達成感は感じているが、その過程で努力してきた自分の良さにまでは繋げて考えられていない。

このことから、まず、基礎・基本的な学習をより定着させ、確かな学力を身につけさせていくために、「分かる・できる喜び」が味わえる授業展開を図っていく。本時目標を明確に設定し、児童がこの時間で何を学び、身につける力は何かを示していくことで、見通しをもち、自分の課題を確実にやり抜く力をつけていきたい。そして、活動の中で疑問に思ったことや、自分の考えを伝え合う時間を多く取ることで、児童が主体的に学習に取り組める工夫をしていくことが必要である。

さらに、活動のふりかえりを行いながら、自分自身のよさに目を向けさせ、自信を深める時間をとっていきたい。また、友だちとの学び合いやかかわり合いを取り入れ、自他の良さを認め合える関係づくりを構築していきたい。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：「話す・聞く・読む・書く」の領域で課題が見られる。言語活動を充実させ、言語能力の向上を目指していきたい。
- 算数科：活用問題に課題が見られる。経験のある問題は挑戦できるが、その経験を基にして考えを広げていくことが難しい。
- 社会科：「知識・理解」で極端に平均を下回っている。身近な問題として学習できていない現状が残る。
- 理科：「技能」では、正しい手順や方法の身につきに課題が見られる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成25年度から28年度を見ると、どの学年も学習意識や生活意識が高まっていた。だが、28年度を見ると、25年度に戻りつつある。特に、昨年度と比べると自己意識の所がどの学年も減少傾向にあった。他にも、「自分の考えを発表していますか」の設問では、「よくしている」と答えた児童がどの学年も半数に減っている。この経年変化の状況から、児童が分かる喜びを感じながら、主体的に学習できる授業づくりを引き続き行っていくことが必要と考える。

1 学年

○生活科の学習では、自ら考え、自ら課題を決めて解決する力を育てることができる単元づくりや学習展開を工夫していく。

○各教科の学習で、遊びの要素を取り入れ、学ぶことの楽しさを知り、自分の課題に進んで取り組めるようにする。毎時間の学習のねらいを明確にし、分かりやすい授業を工夫する。

○体験的な活動から、自分の思いや考えを引き出し、相手意識や目的意識を明確にした豊かな言語活動で、伝え合う力を伸ばしていく。

2 学年

○学習や学校生活に主体的に取り組もうとする児童の育成を図るために、児童の気付きをもとにして課題を設定し、課題解決する場面を意図的に計画的に設ける。

○課題解決の過程において、友達と共働することや認め合うこと・地域の人や材に繰り返し関わることに重点を置き、他教科・学校図書館活用・児童の実生活と常に連携させながら指導を行う。

○自分の考えをもち表現できる児童を目指して、「書く」「話す聞く」活動を日常的に取り入れる。

3 学年

○自分で課題を見つけ、課題を解決するためにはどのようにすればよいか考える学習を計画的に位置づける。

○自分の役割を理解し、友だちや周りの人と協力しながら活動する場を計画的に取り入れる。

○授業中や家庭学習などにおいて、繰り返し基礎・基本的な学習に取り組み、確実な学力の定着を目指す。

4 学年

○1年間の教育活動見通して、合科的総合的に各教科の学習単元を計画する。

○児童の興味関心を大切にして学習課題を設定し、児童が主体的に課題解決する過程において（調べる・話し合う・インタビュー・観察・実験等）基礎的学力やスキルを身に付けさせる。また、自他の違いのよさに気付くと同時に、PDCA サイクルを身に付ける機会とする。

○児童の生活と各教科の学習内容を関連させて、生活の中で活用できる学力を身に付けさせる。

5 学年

○児童の興味関心を大切にして学習課題を設定し、学習計画を立てることで、意図的に見通しをもって学習できるようにする。

○教科・領域を通じた話し合い活動の場を充実させ、互いの意見を積極的に交流できるようにする。

○協働的な活動を計画的に活用し、異なる意見や他者の考えを受容する態度を養う。

○児童が自分の学習活動を確認し、次の課題や見通しがもてるよう、振り返りを大切にする。

6 学年

○対象とかかわる中で、自ら課題を設定し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てられるようにする。

○協働的な活動によって、異なる意見や他者の考えを受け入れるようにする。

○正しいと判断したことがらを自分の意志で実行するとともに、それを実現するために相手や目的に応じて分かりやすい方法で表現し、伝えようとする意欲を高める。

○基礎基本の定着を図り、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。

個別支援学級

○自他の生命を尊重し、自分の大切さとともに、他者の心の痛みがわかる人権感情を育む場面を位置付ける。一つ一つの場面から一般化ができるように進める。

○子どもの実態に応じて、一人ひとりに合った教材・教具、また指示の仕方を工夫し、日々「これができるようになった」という実感が味わえるように指導・支援する。

○将来に向けて主体的に社会参加・社会自立を目指すことができるコミュニケーション能力と社会的スキルを育成する場面を位置付ける。